

がんゲノム医療について

当院は2020年1月に**がんゲノム医療連携病院**に指定されました。がんゲノム医療中核拠点病院である名古屋大学医学部附属病院と連携しながら、保険診療で行う**「がん遺伝子パネル検査」**を実施する体制を整えています。

がんはいついかにわかるのか？

私たちの身体は数十兆個の細胞でできています。細胞の中には遺伝子が含まれており、生命維持に必要なたんぱく質を作り出したり、顔立ちや性格好、お酒に強いかなどの特徴を決めています。『がん細胞』は体の中で無秩序に増殖したり、あちこちに転移する特徴を持っていますが、その多くは遺伝子の突然変異によって発生することが知られています。また、がんは罹りやすい体質と関連する遺伝子もいくつかわかっています。

がんゲノム医療とは

『ゲノム』とは遺伝子をはじめとする遺伝情報の全体を意味する言葉です。近年、患者さんのがん細胞の遺伝子変異を調べることで、特定のがんの診断や治療薬の選択が

できるようになっており、これを『がんゲノム医療』と呼んでいます。乳がんや肺がんなど一部のがんでは、患者さんのがんの組織や血液を用いて1〜数個の遺伝子検査を行い、治療薬の決定に役立てています。さらに最近では、遺伝子解析技術の進歩により、がんの発生や増殖に関係する100種類以上の遺伝子を一度に調べることができるようになりました。

どんな人が「がん遺伝子パネル検査」を受けられますか

薬物療法が適応となるがん患者さんのうち、診療ガイドライン等で推奨される標準的な治療薬が無効となった方や、珍しいタイプのがんで標準治療がない方が対象となります。また、全身状態や臓器の機能が良好で、担当医が薬物療法を継続できると判断していることも、検査を行うための要件となります。

検査のメリットと注意点

検査結果をもとに、保険診療で使用できる治療薬の他、がんセンターや大学病院で

行われている治験や臨床研究など、新しい治療をご案内できる可能性があります。ただし、現在のところ、その確率は検査を受けた方の10%程度と言われており、新規薬剤や治療法の開発が期待されます。

また、検査を受けた方の3〜5%程度で遺伝性腫瘍（生まれつきがんに罹りやすい体質）に関係する遺伝子変異が見つかることがあります。そのため、もしこれらの結果が出た場合に、ご本人や血縁者の方への開示を希望されるかどうかを、あらかじめよく話し合ってから検査に臨んでいただく必要があります。

最後に

当院では、2021年4月に外来化学療法センターとがんゲノムセンターを所管するがん診療センターを設置しました。今後がん薬物療法の一層の充実を図るための取り組みを進めてまいります。遺伝子パネル検査に関するご相談は、担当医もしくはがん相談支援センター（2階総合受付隣）でお尋ねください。